



東北大学附属図書館報 木這子

BULLETIN OF THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

URL <http://www.library.tohoku.ac.jp/>

- 木這子(きぼこ)とは東北地方の方言で、こけしのこと。小芥子這子(こけしぼうこ)-

目 次

○「情報検索の小径」シリーズ 第2回 「木も見て森も見る」力をつける - 文系学生 と情報検索..... 1	○平成18年度特別図書購入報告.....11
○ = 東北地区大学図書館協議会主催 = 「平成19年度 フレッシュ・パーソン・セミ ナー」を開催..... 5	○東北大学創立100周年記念展示 「東北大学の至宝 - 資料が語る1世紀 - 」 開催報告.....12
○平成19年度図書館職員総合研修会報告..... 6	○東北大学創立100周年記念・朝日新聞入社 100年・江戸東京博物館開館15周年記念 「文豪・夏目漱石 - そのころとまなざし」 開催報告.....20
○外部評価委員会を実施..... 7	○東北大学創立100周年記念 平成19年度東北 大学附属図書館企画展 「絵葉書タイムトラベル - 狩野文庫絵葉書コ レクションから - 」開催報告.....22
○情報の遍在化する社会の中で図書館の希望を 語るということ 平成19年度「学術情報リテラシー教育担当者 研修」を受講して..... 8	○会 議.....25
○大学図書館職員短期研修に参加して..... 9	○人事異動.....26
○「平成19年度 フレッシュ・パーソン・セミ ナー」を受講して.....10	○編集後記.....26

「情報検索の小径」シリーズ 第2回

「木も見て森も見る」力をつける - 文系学生と情報検索

国際文化研究科・准教授 落 合 明 子

学生の「考える力」の低下が叫ばれて久しいですが、「考える力」とは論理的かつ柔軟的に思考を展開できることでしょう。私自身は日々学生に接している経験から、情報検索や文章を

書くための実践的な練習を繰り返すことで、そうした能力は強化できると考えています。私の所属する国際文化研究科アメリカ研究講座では、「アメリカ研究特論A・B」という授業を講座

の教員4人全員で担当していますが、文献検索方法や論文の書き方にその授業の2～3割ほどを当てています。以下では、その中から参考図書と書評の活用を中心にご紹介したいと思います。受講者はアメリカ研究を専攻する院生が中心ですが、文系の学生一般にも参考になるかと思えます。

まず、初回の授業において、情報検索や論文執筆で重要な「考え方」を学生に提示し、それを常に意識させるようにします。その考え方とは、詳細～概説、具体化～抽象化、下位概念～上位概念というように、思考のレベルを柔軟的に動かしてひとつのテーマ(課題)を捉えることです。たとえば、論文で、南北戦争前のアメリカ合衆国で奴隷制廃止論者として活躍した元奴隷のF・ダグラスという人物を、彼の演説活動を中心に扱おうとします。テーマを具体的なものから抽象化していくと、「1850年代の奴隷制廃止運動の集会でF・ダグラスが果たした役割

南北戦争直前の奴隷制廃止運動と黒人 黒人の人種平等を求める闘い」などと書くことができます。

しかしながら、こうした説明のみで学生に情報収集を任せてしまうと、運よく自分のテーマに関する資料を見つけることができても、そのテーマが全体の中でどのような位置にあるのか、あるいはそのテーマに関してどのような研究がなされてきたのか(研究史)を把握するまでには至りません。そうなると、研究の意義の明確化など、到底できません。まさに「木を見て森を見ず」状態に陥ってしまうのです。これは、前述した考え方を学生が情報検索で活用していないことに一因があります。つまり、研究テーマの細かな事柄についていきなり調べてしまっただけで、その事柄を取りまく大枠をつかみ、その後で詳細に入るという手順を踏んでいないのです。

そこで、「木も見て森も見る」ことを助けてくれる参考図書(濃縮情報ツール)、たとえば、百科事典や専門事典(『アメリカを知る事典』、

Encyclopedia of American Social Historyなどを紹介します。参考図書からは研究テーマの概略がつかめることに加え、次のような情報も得られることを指摘します。すなわち、1)研究テーマのメジャー度/マイナー度(項目の説明が長ければメジャー度が高い)、2)研究テーマの主要文献(ただし、掲載のない事典も一部ある)、3)研究テーマの権威者(多くの場合、その分野の第一人者が項目を担当)、です。次に、注意点として、以下の4点を挙げます。1)凡例にさっと目を通し、記号などの意味を確認する、2)冊子体の場合は、いきなり項目を探すのではなく、必ず索引から引く、3)オンライン事典などの場合は、部分一致検索や論理演算などを最大限に活用する、4)バランスの取れた情報を得るために、2種類以上のツールを必ず利用する、です。

とはいえ、参考図書だけでは、そのテーマの研究史を把握しようとしても、難しい場合が多いでしょう。理想的には周辺テーマも含めて数多くの文献を読破し、研究動向を地道に検討すればよいのですが、とても時間が足りません。そこで、書評を有効に活用することを勧めます。日本語文献の書評は本数が少ない上に検索しにくいですが、英語文献の書評は豊富で、Web of Science(Advanced Search)やPIOなどのデータベースでは書評に限定して検索ができるので、研究書1冊あたり3～4本の書評を入手することは比較的簡単です。書評の利点としては、1)大まかな概要がつかめる、2)著者の研究目的や背景、研究の意義、その分野におけるその本の意義(周辺の研究状況)などが解説されている、3)評者はその分野の第一人者であることが多く、その人物の視点なども分かる、4)古い本の場合、書評された当時の評価や社会思想が分かる、などがあります。ただし、注意点として、1)評者が公平な立場から本全体を評することをせずに、ある立場から自分が関心のある部分だけを論じる場合もあること、2)書評を読んでこれは重要だと思った本は、

実際に手に取り、じっくりと精読すること、を指摘します。

学生の多くは参考図書を多少利用したことはあっても、ツールを用いて書評の検索をした経験がありません。ですから、参考図書や書評を活用して「木も見て森も見る」ようにと教えても、残念ながら瞬時にマスターできるわけではありません。頭で理解できても、具体的な課題を解くのは難しいようです。少しずつでも習得してくれることを願いつつ、何度も繰り返し課題を出し、対話式の間答を重ねているのが現状です。



落合先生へのインタビュー

Q1. 学生時代に影響を受けた論文・著書・先行研究などがありましたら教えてください。

大学2年生頃に友人に勧められて、本多勝一『日本語の作文技術』（朝日新聞社、1982年）を読み、とても参考になったことを覚えています。タイトルの通り、この本は分かりやすい日本語を書くことに主眼が置かれています。テンの打ち方や複数の修飾語をどの順序で並べると誤読を避けられるかなど、とても実践的です。今でも文庫版で版を重ねているロングセラーです。教員となってからは、日本語の技術的な面に関しては、高橋昭男『仕事文の書き方』（岩波書店、1997年）、論文の論理構造に関しては、小河原誠『読み書きの技法』（筑摩書房、1996年）などを勧めています。

Q2. 文献を探す上で特に注意・工夫している点がありましたら教えてください。

心がけているのは、粘り強く諦めない姿勢です。そうした姿勢は、古文書などの一次資料を探し当てる際だけでなく、図書館のデータベースで文献を探す際にも重要です。たとえば、ひとつ、ふたつのキーワードを入力して何もヒットしなかったからといって、あっさりと諦めず、じっくり時間をかけることが大切です。連想ゲームのように同義語・類義語・関連語や上位語・下位語を考えてみるのです。同じようなことを、このシリーズの第1回目を担当された木村邦博先生も書かれていたと思います。

Q3. ウェブ上の情報を中心とするデジタルな資料と、従来からの印刷物の資料の使い分けをどのように意識していらっしゃるか教えてください。

大学図書館などを通じてアクセスするデータベースや学術雑誌のEジャーナルなどから得られる情報は問題ないと思いますが、誰にでもアクセス可能なウェブ上の情報に関しては、特に注意しています。たとえば、私の専攻であるアメリカ合衆国史に関しては、普通の検索エンジンでヒットするサイトでは、英文和文を問わず、年月日などの単純なミスが散見されますし、特に和文のサイトでは、二次資料をわざわざばかりかじって書いたような記述が目立ちます。ですから、記述は本当に正確か、著者はどのような視点から書いているのかなどを常にチェックする必要があります。個人的には、この手の情報は参照にする程度です。やはり基本は従来の印刷物とそれをデジタル化したものです。

Q4. その他、学生の皆さんに論文を執筆する上で何かアドバイスをお願いいたします。

これまで皆さんのレポートや論文を添削してきた経験から、ぜひ肝に銘じて欲しいことが二点あります。

第一に、締め切り前日に徹夜をして何とか仕上げたことを自慢げに話す人がいますが、それは自分の計画性のなさを披露しているようなもので、むしろ恥ずかしいという意識を持ってください。もちろん、皆さんも多忙で、いつも時間に追われているでしょう。であるからこそ、計画を立てて資料を収集し、アウトラインを作成し、それに基づいて執筆するように心がけてください。こうした手順を踏んではじめて論理的な文章を書くことができると思います。

第二に、レポートや論文は皆さんの「分身」だということ覚えておいて欲しいです。分身なので、書く際には内容だけではなく、表

紙や註などの体裁にも神経を使い、ていねいに仕上げてください。「人にとって大切なのは中身（人格）で、外見など二の次」と言いながらも、皆さんは身なりを整えて大学へ来ますよね。それと同じだと思います。内容はなかなかよいのに註の書き方がいい加減な論文に出会いますと、本当にかっかりします。

いろいろと大変なことが多くて面倒くさそうだが、という印象を与えてしまったかもしれませんが、じっくりと時間をかけて長い文章を書くことには大きな知的達成感があります。また、習得した文献検索のノウハウや文章を書く技術は卒業・修了後も応用でき、大いに役立つことでしょう。どうか学生時代によいレポートや論文を数多く書き、場数を踏むようにしてください。

(おちあい・あきこ)

「情報検索の小径」シリーズは、本学における学術情報リテラシー教育支援の一環として、学内の先生方に情報検索に関する記事をご寄稿いただくものです。

= 東北地区大学図書館協議会主催 =

「平成19年度フレッシュ・パーソン・セミナー」を開催

東北地区大学図書館協議会では、去る12月5日、図書館に配属されて概ね2年以内の職員を対象とした「フレッシュ・パーソン・セミナー」を開催した。第2回目となる今年は東北大学附属図書館（東北地区大学図書館協議会常任幹事館）を会場として開催され、東北地区の国立大学法人ほか・公立・私立の14大学から29名が受講した。

このセミナーは、「所属機関の違いに左右されない図書館職員としての基本的な知識を身につけると同時に、地区内の職員との交流の機会を設け、人的ネットワークの形成を促すことを目的」とし、企画されたもので、講師陣も各機関から実務担当の係長等を揃え、新人職員が自分たちの業務について理解しやすいよう工夫を凝らした講義が行われた。

最初に東北大学附属図書館総務課長による

「大学図書館の役割」の講義の後、「図書館カウンターでの接遇」、「目録データの作成と提供」、資料の活用 NACISIS - ILLを中心に」の講義を行った。また、これから図書館職員として活動していく上で基本となる「カレントトピックス 情報リテラシー教育支援」をテーマとして取り上げ、始めに概要の講義を行い、その後、小グループに分かれて討議を行った。討議では、新人ならではの新鮮な視点での意見が数多く出された。また懇親会では、「日頃の業務について相談する場が持てて良かった」「他大学の方と面識ができて良かった」といった感想が多数聞かれた。

東北地区大学図書館協議会では、今回寄せられた要望や意見を採り入れ、来年度以降も、より充実した内容で開催を続けて行く予定だという。

（総務課）



（グループ討議風景）

平成19年度図書館職員総合研修会報告

平成19年12月14日（金）に、東北大学附属図書館職員及び東北地区図書館協議会加盟館職員を対象とした標記研修会を開催しました。

今年は研修のテーマを「他業界に学ぶ仕事のヒント」とし、図書館以外の業界での仕事の進め方、考え方などを学び、自分たちの仕事を見つめなおす機会とすることを目指しました。

講師及び講演の概要は以下のとおりです。

講演 「接遇の基本」 ホテル仙台ブラザ
レストラン部 教育研修部長
大沼 喬二氏

講演 「人材育成について」 楽天株式会社
開発人材部部长
坂下 未穂氏

大沼氏からは、レベルの高いサービスを要求されるホテルマンの仕事の紹介があり、直接接遇に関わらないスタッフの方が実際には多く、細かく分業化されているが、すべての仕事がかみあって良質なサービスの提供を可能にしているとの、サービスに関わる多様な業種に共通するお話がありました。さらに、利用者は「快適さ」、「便利さ」などがあって初めて利用者となること、事前の準備、スタッフ間での情報共有などの重要性についてホテルの例を挙げ説明いただきました。質疑応答では、無理な要求をしてくる利用者には、ルールはルールであり例外的な扱いはできないことを明確に伝えることが重要なことや、クレームは他部署に届けられることが多いので情報の共有はそういった面でも重要であるなど具体的なアドバイスが多く述べられました。受講後のアンケートでは、「共通することが多く参考になった」、「利用者の立場

に立つということをもう一度考えてみたい」など非常に影響を受けたとの内容のコメントが多く寄せられました。

坂下氏からは、今年で創立10周年を迎えた若い会社である楽天について業務内容の説明があった後、氏の関わる開発系の人材育成の考え方を中心にお話がありました。社員のほとんどが入社後日が浅く、また関連業界内での転職も多いことから長期的に社員を育成するというより、その時のニーズに応じて人材を効果的に使い分けている現状も語られました。IT業界が売り手市場なだけに、スキルを身につけた人材であれば比較的容易に業界内でのキャリアアップが可能であり、そのため正社員であるなしに関わらず意欲は高く、また契約解除になったとしてもその人にとってのデメリットにはならない、などの側面も紹介されました。スキルを習得するための研修については、ある程度系統立てて実施しているが、マインドの育成に関しては必要ではあるものの、習得の方法については模索中であること、解答があるとなれば現場の中にしかないと考えているとのことでした。

質疑応答では、育成途中の評価の方法について質問があり、「目標設定」、「一定期間後の自己評価」などは数値による段階評価で一通り行っているが、行動面（Behavior）など数値にならない点も重要であるとの回答を得ました。受講後のアンケートでは、「人事の話聞くこと自体が新鮮だった」、「要領よくこなす必要性を感じた」、「完成されたものでなく、模索中のものは模索中など率直に語っていただいたのがよかった」などの感想が寄せられました。

今回は、異業種ということもあり例年に比べ質疑応答が活発でした。両講師とも図書館業界

とは全くと言っていいほど仕事上のつながりは
ないのですが、仕事を進める上で考えているこ
と、今後考えなくてはならないことなど、多く
の不特定の利用者を抱えている業界として図書
館との共通点も多く発見できました。ホテルだ
から、IT企業だからできることなどももちろ
ん紹介されましたが、これらのお話をヒントに
「図書館だからできること」をそれぞれのスタ

ッフが考える良いきっかけとなればと思います。

両氏には、年末という多忙を極める中、快く
講師を引き受けていただいたことに心より感謝
いたします。また、サービス窓口のローテーシ
ョンなどのやりくりをし、職員に研修参加の機
会を与えてくださった各部署の皆様がこの場を
借りて御礼申し上げます。有難うございました。



講演する大沼氏



講演する坂下氏

(総合研修委員会)

外部評価委員会を実施

11月12日及び13日と2日間にわたり、外部評
価委員会が実施されました。

これは、法人化に伴い、図書館の中期目標・
中期計画に基づき実施されたものである。

初日は、本館、農学分館の視察及びヒアリン

グ、2日目は、医学分館、北青葉山分館、工学
分館の視察及びヒアリングが行われた。

なお、今後の予定として外部評価委員の報告
を2月末までに受け、3月末を目途に外部評価
報告書を作成することとなっている。

情報の遍在化する社会の中で図書館の希望を語るということ 平成19年度「学術情報リテラシー教育担当者研修」を受講して

情報企画係 木戸 浦 豊 和

平成19年11月7日(水)から9日(金)までの3日間、国立情報学研究所において「学術情報リテラシー教育担当者研修」を受講いたしました。この研修会は、情報リテラシー教育の理論的背景や最近の動向に関する講義をはじめ、各大学図書館における活動内容の報告、効果的なプレゼンテーション技法の紹介、数名のグループに分かれての共同討議など、その内容は多岐にわたり、理論と実践を適度に織り交ぜたとても充実したものでした。

特に共同討議では、私たちのグループは、「卒業までのステップ - 学年別講習会の企画」と題し、講習会の具体的内容について検討しました。その際、工夫したのは、講習会の対象者のプロフィールを明らかにするということでした。つまり、これまでほとんど図書館を利用したことのない新生が、少しずつ図書館に馴染み、授業などを通じてそれぞれの学問分野における知識を身に付けて行くとともに、いくつかのレポートを執筆することによって論文の書き方の基礎を学び、最終的には卒業論文を仕上げ、無事卒業に至るという物語を想定し、その上で、それぞれの学年や段階に応じて求められる能力と、それを獲得するために必要な講習会の内容を考える、という手順を踏んだのでした。他大学のメンバーと議論を進める過程で様々な話し合いを持つことができ、内容の濃い研修会の中でもっとも実りのある時間であったと思います。

さて周知のように本館では、全学教育科目授業「大学生のための情報検索術」の実施や、『東北大学生のための情報探索の基礎知識』シリーズの刊行など、積極的に情報リテラシー活動に取り組んで来たと言えます。しかし、課題も少なくありません。リテラシー教育に関する理念や目標を設定すること、計画的かつ体系的な講習会を整備すること、全学的な規模でのリテラシー教育を実現すること、講習会の評価方法を確立すること、リテラシー活動を図書館業務の中にしっかりと位置付けること、職員のスキルの向上と継承を図ること - そして何よりも図書館の果敢な試みにも関わらず(?)、その熱情がなかなか学生や教員に浸透しないということも大きな問題の一つであるように思います。

ネットワーク上での情報の遍在化が進展する中で、図書館のアイデンティティを説得的に語り出すことは決して容易なことではないように思えます。社会全体が「図書館化」する中で、図書館自体の存在意義をどこに求めたら良いのだろう - そのようなことを漠然と思い抱いていた折、本研修会における青山学院大学・野末俊比古先生の指摘 - 情報探索・情報収集における「オンリーワン」としての図書館から、もっとも身近な存在としての「ファーストワン」への転換、そしてその中核的要素としての「教育的機能」の重要性 - を、図書館の希望を語る言葉として、研修会の熱気の記憶とともに、受け止めたいと思いました。

(きどうら・とよかず)

大学図書館職員短期研修に参加して

医学分館運用係 永 井 伸

平成19年11月13日から16日までの4日間、東京大学附属図書館を会場として開催された、標記研修に参加しました。この研修は大学図書館等の若手職員にふさわしい、図書館業務の最新の知識及び専門的技術を修得することを目的としており、12の講義、会場館の見学、班別討議など盛りだくさんの内容に、東日本の大学等の図書館から集まった40名ほどの受講者と共に取り組みました。

特に印象に残ったのは、東京大学の小島氏による資料保存の講義でした。資料保存の概念が、修復のみを指す狭い「Conservation」から、保存に必要な施設や人材の整備、政策の策定など、運営面、財政面の考慮を広く含んだ「Preservation」へ発展してきたという話がありました。それを踏まえた上で、ご自身の経験にも基づいて述べられた、「図書館員は資料修復のプロ（専門医）を目指すのではなく、資料を持っている強みを活かして、蔵書全体を広く診断し、どの資料を保存する必要があるのか、また、簡易な修復で済ませるもの、専門家に修復を任せるものというように、それぞれの資料をどのような方法で保存していくのかを見極める、ホームドクターとしての役割を担うべきだ」という主張が記憶に残りました。

電子ジャーナルのパッケージ契約の浸透などにより各大学で利用可能な学術情報が一様化してきている中、既に所蔵している資料のうち、どれを重点的に保存していくかという判断は、今後の各図書館の個性を決める1つの要素になると思います。

そして、その判断には、情報リテラシー能力の一つとしても挙げられている、資料を評価する力が求められます。資料の評価を利用者である教員や学生が行うのはもちろんですが、同志社大学の井上氏が学生用図書の選書方法として紹介した、独自に作成した詳細な選書基準に沿った選書により、図書館員の選書に説得力を持たせることや、全点現物を取寄せて、内容だけでなく目次や奥付、索引といった資料の形式的な部分もあわせて評価するという、図書館員独

自の評価の観点があるというメッセージは参考になりました。

あらゆる分野の資料を公平に取扱う図書館員の中立的な立場が、大学図書館における資料の多様性を維持するのに果たす役割はかなり大きいと思います。資料の評価は今後さらに自信を持って取組めるよう、日々の業務の中で意識していきたいと感じました。

さて、資料の保存ということで普段の業務を思い返すと、研究室に所蔵されている資料が頭に浮かびます。他大学等から文献複写依頼があり、研究室に資料を借りに行くことはたびたびですが、残念ながら行方不明となっていることも多くあります。研究室ごとに独特の管理方法に委ねられていることが、資料の見つけにくさや散逸を生じる原因になっています。

研究室の研究費で資料を購入し、その研究室に配置することは、資料を最も必要とする利用者が資料にアクセスしやすいという利点があります。また研究室の予算により、限られた図書館の予算では実現できない、大学全体としての蔵書の充実を図れるというメリットもあります。これらのメリットを活かしつつ、さらに資料を長期的に、かつ多くの利用者に活用してもらうには、図書館員が幅広い「Preservation」の観点で研究室資料の管理体制を充実させることが重要でしょう。

図書館が持つ資料管理のノウハウを研究室に提供し、研究室での資料管理体制を向上できれば、資料の保存のみならず、利用者から使いづらいとクレームのある研究室資料の、利用の利便性を上げるきっかけにもなると思います。

今回の研修では、他の受講者との会話や講義等で様々な刺激を受けました。ここでは触れられなかったものも含め、本研修の講義資料は、NIIの研修事業のウェブサイトで開催されています。興味のある方はぜひご覧ください。

最後になりましたが、研修に参加するにあたりお世話になった皆様、どうもありがとうございました。

(ながい・しん)

「平成19年度 フレッシュ・パーソン・セミナー」を受講して

工学分館管理係 柳 原 幸 子

2007年12月5日、東北地区大学図書館協議会主催によるフレッシュ・パーソン・セミナーが、本学附属図書館を会場に開かれた。このセミナーは国公立・私立を問わず大学図書館で働いて1～2年程度の職員を対象としている。午前2講義、午後3講義、最後にグループ討議も含むという盛りだくさんの内容である。当日は東北各地から、年齢も職歴も様々な多数の参加者が集った。

午前は、初めに大学図書館の役割について豊富なデータを元にした講義があった。大学内外からの要請に次々と応えていかなければならない現在の状況を、改めて認識することができた。続くカウンター業務についての講義では、通信教育部が開講されたことによってカウンターサービスにどのような変化が生じたのかということ、多くの事例・具体例で生々しく聞くことができ、普段あまりサービス系の仕事に関わっていない私にはとても興味深い内容であった。

昼食時には、東北地区職員採用試験の時に知り合った方々とも久しぶりに会話を交わすことができ、懐かしくまた楽しい一時となった。

午後は、まず目録データの作成と提供について講義があった。アルバイト職員など様々な雇用形態の方々と共に目録を作り、維持していくには、技術もさることながら、お互いにコミュニケーションをとりやすい環境作りをこころがけることが大切である、という点が大変印象深かった。

次に、資料の活用という観点からILL業務について講義があり、今抱えている課題や今後の動向をうかがうことができた。よりスムーズなILL業務のためには、きめ細かな雑誌の受入作業とリテラシー教育の充実が重要であることを知り、雑誌の受入を担当している私は、身の引き締まる思いがした。

続いて、今回のカレントトピックスとして取りあげられている情報リテラシー教育につい

て、図書館の業務として位置づけられるようになった経過や、それに対する現状と課題についての講義があった。これまで私の中のリテラシー教育は、「最近求められるようになった仕事」というような漠然としたものであったが、その根拠と方策をしっかりと学ぶ機会を得ることができた。

さらにその後、リテラシー教育に関する二つのテーマでグループ討議が行われた。私のグループは「効果的なテキスト・マニュアルの作成方法」というテーマで話合うこととなった。討議にはテーマに関する現在の職場の状況について簡単なメモをまとめて臨んだが、実際に始まってみると、お互いの図書館が抱える事情が異なることから状況確認をするだけで手一杯となり、結論や方向性まで意識を向ける余裕がなかった。しかし、この討議のおかげで初めてお会いした方とも会話が弾み、会場全体に一体感が生まれたように思う。また、テーマを具体的に検討できたグループの発表はとても参考になり、リテラシー教育を実際に進めていく際の課題も明確にすることができた。

図書館の仕事に就いて約半年、最近は自分の業務内容が少しみえてきた一方で、自分の仕事にそれだけで完結しているような感覚にとらわれていたように思う。いわば巨大組織の中の孤独のようなものである。しかし、今回セミナーを受けて、図書館の仕事は決してそれぞれの業務で完結しているのではなく、自らの仕事の質を高めることが他の業務のスムーズな進行に連動していることを、具体的に実感できた。

今回の研修は、一日と短い時間ではあったが、私にとっては様々な刺激を得る大変有意義な経験となった。このような機会を設けて下さった全ての関係者の方々に心より御礼申し上げる次第である。ありがとうございました。

(やなぎはら・さちこ)

平成18年度特別図書購入報告

特別図書購入費によって下記資料を購入し、本館に備え付けましたのでご利用ください。

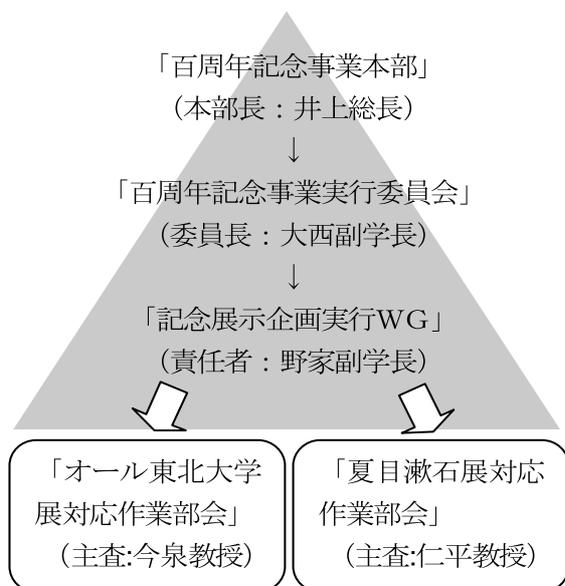
(情報管理課)

番号	資料名	内容	出版形態
1	Handbook of Paleoanthropology. (古人類学ハンドブック)	古人類学の最新の研究方法、霊長類の起源と進化や行動と生態に関する成果をまとめた書籍。	図書
2	Excavations at the priory and hospital of St Mary Spital, London. (MoLAS Publications. Monograph Series 1) 他	ロンドン博物館によるイギリスの先史から近代までの遺跡の発掘調査に関する研究をまとめた一連の書籍。とくに、中世以降の報告が充実している。	図書
3	四庫全書存目叢書 補編 1 - 28	四庫全書存目叢書は、清朝期の四庫全書編纂事業の過程において書名だけが記録された6700余種の書物の中から、現存する著作を採集した叢書であり、その補編は、四庫全書存目叢書の刊行時に未発見であった本や、影印の許可が得られなかった本を可能な限り蒐集し印刷したものであり、明末清初期の政治・社会・思想・文化・文学・語学等の研究をする上で不可欠の一次資料である。	図書
4	鳥獣人物戯画 甲巻, 乙巻	日本の絵巻物の中でも、平安時代に遡る著名な作品。甲巻は擬人化された動物たちのふるまいをユーモラスに描写し、乙巻は空想的存在も含めた動物の生態を活写する。アニメの源流としても近年再評価されている。	図書
5	日本現代教育基本文献叢書 教育基本法問題文献資料集成 第 期 - 第 期	主要文献、雑誌、講事録、判例など関連資料から教育基本法のこれまでの歩みと今後のあり方を問い直す初の資料集。	図書
6	人間形成 第 1 回配本	道徳指導と生活指導の統合した「道徳教育」の実現をめざし、その実践への指針となるべく発刊された雑誌「人間形成」の復刊版。	図書
7	日本占領法令集 (全13巻, 別巻 1)	「ポツダム宣言ノ受諾ニ伴ヒ発スル命令ニ関スル件(昭和20年勅令第542号)に基く法令集」を復刻。占領政策の実態解明の一助となるとともに、現行法の研究にも貢献するものである。	図書
8	日本社会保障基本文献集 第 期 戦時体制における社会保険 全10巻	日本における社会保障制度の成立期を概観するために、1930年代から60年までの関連する諸分野の重要文献を集成・復刻したものである。	図書
9	伝記叢書 (第23回配本) 志士・開拓者・探検家 (第239巻~第252巻)	明治以降に刊行された数多くの伝記の中から、近代日本のあらゆる分野に生きた先賢について、今後の研究基本図書となるよう復刻したものである。	図書
10	幕末・明治初期邦訳経済学書	明治期に西欧より導入された経済思想をその主要邦訳書の系統的復刻によりたどる初めての試み。	図書
11	近代日本金融史文献資料集成 第 4 期, 第 6 期	「近代日本金融史文献資料集成」シリーズは、日本における金融史研究上重要な文献を収集した史料集であり、当該研究分野では定評のある出版物である。その第 4 期および第 6 期は、特に、庶民金融(質屋高利貸)および中小企業金融関連の史料集、植民地金融と地域金融関係の史料集、信託会社関連の史料集であり、多方面にわたって利用可能なものである。	図書
12	Islam and Globalization. (イスラームとグローバルイゼーション)	イスラームとグローバルイゼーションに関する重要論文集で4巻からなる。	図書
13	The Atlantic Slave Trade. (大西洋奴隷貿易)	ヨーロッパ近代の成立と深い関係にある大西洋奴隷貿易に関して、著名な歴史学者ジェレミー・ブラックが編集した最新の研究文献集。	図書
14	Encyclopedia of African-American Culture and History: the Black Experience in the Americans. 2nd ed (アフリカ系アメリカ人の文化と歴史百科事典 第2版)	黒人の歴史、人物、業績に関する包括的な情報を提供するもので、北アメリカ全体、中央・南アメリカ、カリブ諸島を網羅し、各々の文化、業績、挑戦の歴史と現状を理解できる。	図書
15	Early English Books. STC2. Unit 130 (近世初期英語印刷文献集成)	清教徒革命から王政復古に至る期間の英国初期刊本を集成したもの。	マイクロフィルム
16	Parliamentary Debates (Hansard) House of Lords 5th ser., Vols. 674-688 (英国議会上院議事録) House of Commons 6th ser., Vols. 427-444 (英国議会上院議事録)	英国議会上院及び下院における会期毎の議事録及び議事全体について、議員の発言・討論を逐語的に収録したもの。	図書

東北大学創立100周年記念展示

「東北大学の至宝 - 資料が語る1世紀 - 」開催報告

東北大学創立100周年記念事業として開催された本展示会は、全学の協力・支援のもと、次の組織で運営された。



附属図書館では「記念展示企画実行WG」が以下の事務全般を担い、百周年記念事業室と共に展示関係の渉外・財務・関連イベントの統括などを行った。また、共同主催機関である財団法人東北大学研究教育振興財団、東京都江戸東京博物館、仙台市博物館、そして朝日新聞社等と連携し、事業を推進した。

本稿で報告する「東北大学の至宝」展は、「オール東北大学展対応作業部会」のもとで実務的な検討・運営が行われ、約15の組織から計322点の資料が出陳されることとなった。文系・理系の区分けなしに様々な分野の資料が一堂に集まったこと、さらに大学のキャンパスを離れて東京でも開催することは、本学にとっても初めての試みとなり、100周年を記念する大規模イベントのひとつとして、また大学の社会連携、生涯教育への貢献として、その果たした役割は大きなものがある。ここでは開催内容を振り返ると共に、観覧者アンケートの結果概要を報告する。

東京会場
展示

平成19年9月1日(土)から10月14日(日)まで、東京都江戸東京博物館の常設展示室5階、第2企画展示室で開催。500㎡ほどの広さに約205点の資料を展示。41日間で33,503人の入場者があった。



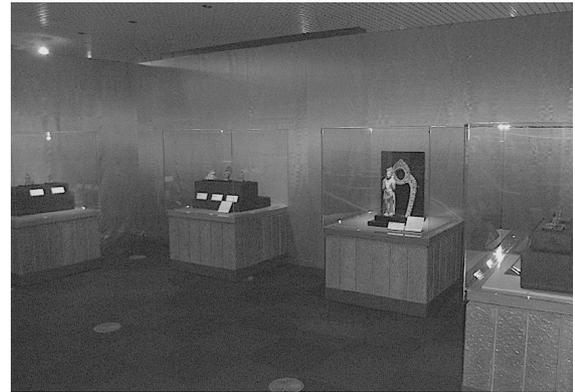
猛暑の東京。JR 両国駅から江戸東京博物館へつづく街路灯には、至宝展と漱石展の旗が交互にはためく。



江戸東京博物館は高床式の倉をイメージした独創的な建物。チケット売場へと続く歩道入口には、至宝展の案内ゲートを設置。



8月31日の開会式は常設展示会場内の中村座・実物大模型前で開催。江戸東京博物館の竹内館長，東北大学の井上総長，今泉教授からのご挨拶。



「チベット」コーナーでは赤繻子の壁が囲むなかに仏像や大蔵経などを陳列。



展示会場入口。東北大学創立頃の記録写真が230枚以上並ぶ導入部。



秋田家史料を中心に古文書が並ぶ「奥羽史料調査部」。



「図書館」から「国宝」のコーナーは，国宝2点をはじめ附属図書館所蔵の多彩な資料を展示。



「赤煉瓦書庫」コーナーの考古学資料では重要文化財を多数展示。実在する建物の外壁写真がコーナーを囲む。



自然科学系の資料が並ぶ「標本庫～世界に誇るコレクション」



「研究第一主義の系譜」では文化勲章受章者のパネルが囲むコーナーに関係資料を展示

アンケート回答の一例

・良かった点等

『とても興味深い企画展。大学、学問に対する関心を若い世代に呼び起こせれば素晴らしい。近年の若い世代の夢や眺望のなさに危機感を感じます。』(60代・一般)

『良くまとめられていて分かり易かった。すばらしいひとときを過ごせました。』(60代・一般)

『我が国にはいろんな私大・国立大がありますが、この「東北大学の至宝」展は、大学を超えた展覧会だと思う。』(20代・他大学)

『面白かった。さすが歴史ある大学、資料の厚みが違うと思った。』(40代・一般)

『毎週土曜日に実際に展示物を見ながら各先生方がレクチャーしていただけるのが分かり易くとても良かった。図録も一般人にとってわかりやすく興味深く読めた。』(40代・一般)

・工夫すべき点等

『現在の東北大についてもっと紹介してもよいのではないかと。サイエンス・エンジェルなど一般にもっと知られてよい。』(40代・一般)

『お宝をこのように公開(しかも東北大から離れたところで)されるのは、大変良い広報だと思う。ただ、もっと展示品のおもしろさを伝える派手な広告をしても良かった。』(30代・一般)

『過去・現在・未来を考えると、現在・未来はビデオとパンフレットでは寂しい』

(60代・OB)

『展示物に関する説明が少ないものがあり、残念に思った。』(60代・一般)

・要望等

『在学中も見ることが出来ず、東北大のことを意外と知らないことに気づいた。現学生諸君に是非教えて頂きたい。東京での母校の企画に感謝』(40代・OB)

『期待よりはるかにおもしろい。これからの大学は資料を拓く存在であってほしい。』

(40代・一般)

『100年祭がなかったら日の目をみなかったであろう貴重な学術資料。もっと宣伝をしてそのような機会を作ってほしい。』(70代・OB)

『こういうことをして大学を宣伝した方がよい。東北大の名前は有名なので知っていたが非常にすばらしくびっくりした。仕事に携わる人にお礼を申し上げます。』(70代・一般)

『大学在学中はなかなか見られなかった世界的に有名な資料が数多く見られ、大変参考になった。今回の企画を足がかりに、これらの資料を一般的に公開する機会をもっと作って欲しい。』

(30代・OG)

イベント

江戸東京博物館のホールまたは会議室を会場として、申込制・有料による記念講演会を開催。これは「えどはくカルチャー」と呼ばれる江戸東京博物館の有料講演会の一環として開催した

もので、5回合計で408名の参加者があった。



フロアレクチャー

講演会

開催日	講師「演題」	参加
9/2 (日)	西澤潤一氏(首都大学東京学長) 「独創のすすめ - 未来を拓く科学教育 - 」	126名
9/9 (日)	藤森照信氏(東京大学生産技術研究所教授) 「藤森建築と芝棟」	96名
9/16 (日)	瀬名秀明氏(作家・東北大学機械系特任教授) 「科学と小説と夢見る力 - 東北大学機械系研究室から - 」	39名
9/23 (日)	奥山直司氏(高野山大学文学部密教学科教授) 「河口慧海ヒマラヤに行く - 日記とコレクションから見る『チベット旅行記』の世界 - 」	95名
9/30 (日)	川島隆太氏(東北大学加齢医学研究所教授) 「脳を鍛えよう! - 脳科学者からのメッセージ - 」	102名

江戸東京博物館の展示会場では、参加自由・無料によるフロアレクチャーを開催。これは実際に展示資料の選定・解説執筆を担当した東北大学の教員が、展示会場において資料解説を行うイベントである。計7回実施し、201名の参加者があった。

開催日	講師「演題」	参加
9/1 (土)	永田英明氏(史料館助教) 「学都」	31名
9/8 (土)	曾根原理氏(史料館助教) 「図書館」	38名
9/15 (土)	磯部彰氏(東北アジア研究センター教授) 「今も昔も手書きの世界」	12名
9/22 (土)	柳原敏昭氏(文学研究科准教授) 「東北大学の古文書」	38名
9/29 (土)	長岡龍作氏(文学研究科教授) 「チベット - 河口慧海と多田等観請来品の世界 - 」	26名
10/6 (土)	柳田俊雄氏(総合学術博物館教授) 「赤煉瓦書庫」	26名
10/13 (土)	永広昌之氏(総合学術博物館教授) 「標本庫 研究第一主義の系譜」	30名

仙台会場

展示

平成19年11月2日(金)から12月9日(日)まで、仙台市博物館で開催。1,000㎡ほどの広さに約314点の資料を展示。会場の広さにあわせて、東京展示より100点以上多く陳列し、33日間で12,036人の入場者があった。

なお、解説図録は、東京会場と仙台会場とで同一のものを販売したが、巻末の展示資料一覧にて両会場陳列品の違いがわかるようにした。



秋晴れの仙台。仙台市役所に設置された大垂れ幕。



仙台市博物館の正面玄関上に設置された看板。



11月2日に行われた開会式のテープカット。仙台市の梅原市長，東北大学の井上総長，研究教

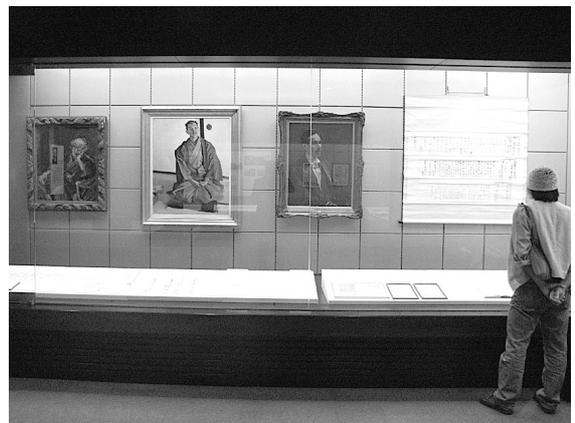
育振興財団の相澤理事，河北新報社の一力社長，仙台放送の野口取締役。



「プロローグ」。東北大学誕生当時の史料や写真，ポスターなどを陳列。



「狩野文庫 - 日本文化の鑑定 -」。10万冊超の蔵書から狩野の人間性を感じる資料を展示。



「阿部次郎・小宮豊隆と仙台 - 華ひらく学都 -」。自筆資料や肖像画，文人たちの交流がわかる資料など。



「図書館 - 文化の迷宮 - 」。碑拓，和算，古写経から，洋書や中国風俗資料まで，多様な蔵書を公開。



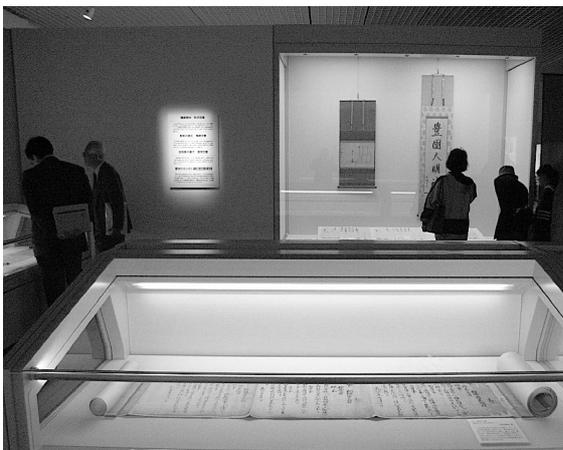
「国宝」。巻物2点をこれまでにないほど長く展開して展示。



「チベット - 河口慧海と多田等観請来品の世界 - 」。さまざまな請来品からチベット文献など。



「赤煉瓦書庫 - 亀ヶ岡文化の工芸品 - 」。旧制二高の書庫であった建物に収蔵されている，考古学・古代史分野の逸品。



「奥羽史料調査部」。天下人の文書や大家のコレクション，名家ゆかりの古文書などを陳列。



「標本庫 - 世界に誇るコレクション - 」。古生物・生物標本，鉱物，金属，医学資料など多様で大量の資料を展示。



「研究第一主義の系譜 - 東北大学の文化勲章受章者 - 」。受章者一人一人に因んだ資料を陳列。

イベント

展示会の会期中は、学内各組織による記念イベントを仙台市博物館の館内で開催。次の3件がおこなわれた。



1)「東北大学テクノワンダーランドへようこそ！ - 体験と展示 - 」と題し、11/2～11/15までギャラリーにおいて「東北大学における金属

・材料研究」と「我が国の情報通信における東北大学電気通信研究所の歴史」を展示（主催：金属材料研究所，多元物質科学研究所，工学研究科マテリアル・開発系，電気通信研究所。協力：附属図書館，総合学術博物館）。12日間で802名の入場者があった。また，11/3～11/4にはロビーにおいて超伝導ジェットコースターなどの体験イベントを実施。二日間で約1,400名の来場者があった。



2) 11/23～11/24には「サイエンス・エンジェルの体験科学ひろば@仙台市博物館」を開催（主催：女性研究者育成支援推進室。協力：附属図書館，仙台市博物館）。ロビー，ギャラリー，講習室，遊歩道の各場所において，クイズや工作，DNA抽出などの体験イベントを実施。「政宗の食と健康」，「ミクロの世界・マクロの世界」，「自然との出会い」，「おもいのほか頼りない視覚」，「テーブルサイエンス」などをテーマに，20人前後のサイエンス・エンジェルが分かりやすく解説。二日間で約900名の来場者があった。



3) 特別展会場付近において「絵葉書タイムトラベル - 狩野文庫絵葉書コレクションから - 」を開催(主催: 附属図書館)。会場出口で展示していたため来場者全員に観覧された。



関連行事として、仙台市博物館のホールにおいて申込制・無料による講演会を4回、ミュージアム・トークを3回開催した。両行事あわせて585名の参加者があった。

講演会, ミュージアム・トーク

開催日	講師「演題」	参加
11/3 (土) (講演会)	井上明久氏(総長) 「地域と歩む東北大学」	102名
11/10 (土) (ミュージアムトーク)	曾根原理氏(史料館助教) 「知る人ぞ知る狩野文庫 - 国宝からマッチラベルまで - 」 磯部彰氏(東北アジア研究センター教授) 「わが図書館は日本の敦煌 - 宝島それとも夢の島? - 」	61名

11/17 (土) (ミュージアムトーク)	柳原敏昭氏(文学研究科准教授) 「いにしえ人の声を聞く - 東北大学の古文書 - 」 長岡龍作氏(文学研究科教授) 「チベット - 河口慧海と多田等 観請来品の世界 - 」	78名
11/23 (金) (講演会)	小谷元子氏(理学研究科教授) 「科学の魅力 - 数学の魅力 - 」	72名
11/24 (土) (講演会)	大隅典子氏(医学系研究科附属 創生応用医学研究センター教授) 「遺伝子を働かせて脳を活かす!」	67名
11/25 (日) (講演会)	竹内誠氏(東京都江戸東京博物館館長) 「江戸文化を語る - 狩野文庫の魅力 - 」	115名
12/1 (土) (ミュージアムトーク)	柳田俊雄氏(総合学術博物館教授) 「縄文の華・亀ヶ岡文化の工芸品」 永広昌之氏(総合学術博物館教授) 「東北日本はアンモナイトの宝庫 - 東北大学のアンモナイト研究100年 - 」	90名

終わりに

企画・構想から3年かけた本展示会が無事成功裡に終わられたのも、関係各位の協働・協力・支援の賜物であり、心より感謝申し上げます。また、なにより図書館関係全職員の理解があったからこそ成し遂げられた催事であった。関係者にはこの場を借りて御礼申し上げます。

東北大学創立100周年記念・朝日新聞入社100年・江戸東京博物館開館15周年記念

「文豪・夏目漱石 - そのころとまなざし」開催報告

東北大学創立100周年記念事業の一つとして開催した展示会「文豪・夏目漱石 - そのころとまなざし」は、9万人に近い来場者の方々に恵まれ、盛況のうちに終了することができました。

本展は、東北大学が所蔵する「漱石文庫」を中心に約800点の展示資料から構成し、「誕生から大学卒業まで」「松山・熊本～ロンドン時代」「漱石が描いた明治東京」「漱石山房の日々」「晩年」の6つの章を通じて、夏目漱石の生涯と作品の魅力、漱石が生きた時代の息吹を伝えようとしたものでした。

『漱石を売る』『漱石先生の手紙』などの著書がある作家の出久根達郎さんからは、「この特別展では漱石先生の日常にまつわる品もたくさん展示されていて、いろんな顔を持つ漱石、文豪としてではなく生きている漱石が身近に感じられました」(平成19年10月17日付『朝日新聞』夕刊)などの感想をいただくなど、新聞雑誌、テレビやインターネットなどで数多く取り上げられるとともに、展示会終了後も多くのご意見やご感想、反響や共感の声を寄せられました。現在も変わらない夏目漱石の人気にあらためて感じ入る次第です。

本展の開催にあたり、関係各位から頂戴したご厚意に心より御礼申し上げます。

展示

- ・ 入場者数：89,436人
- ・ 会 期：平成19年9月26日(水)
～11月18日(日) 48日間
- ・ 主 催：財団法人東京都歴史文化財団，東京都江戸東京博物館，東北大学，朝日新聞社
- ・ 会 場：東京都江戸東京博物館 1階展示室

展示会関連イベント

- ・ えどはくカルチャー

開催日	講師「演題」	参加
10/21 (日)	橋本由起子氏(江戸東京博物館学芸員) 「展覧会のみどころ1 - 漱石と江戸東京」	41名
10/27 (土)	仁平道明氏(東北大学文学研究科教授) 「われは我が愆を知る。我が罪は常に我が前にあり - 漱石・聖書・『三四郎』」	40名
10/28 (日)	富山太佳夫氏(青山学院大学文学部教授) 「漱石はホントに英語がよく読めたの?」	65名
11/10 (土)	金子末佳氏(江戸東京博物館学芸員) 「展覧会のみどころ2 - 書簡にみる漱石の日常」	32名

- ・ 講演会など

開催日	講師「演題」	参加
10/6 (土)	すみだ弦楽四重奏団(新日本フィル選抜メンバー) 「文明開化のクラシック」	170名
10/6 (土)	夏目房之介氏(マンガコラムニスト) 「漱石の言葉」	368名
10/12 (金)	「文学散歩『彼岸過迄』を行く」	
10/13 (土)	半藤末利子氏(エッセイスト)， 聞き手 宮本隆治(元NHKアナウンサー) 「祖父漱石のこと」	375名



江戸東京博物館



展示会場の模様



漱石文庫の蔵書

アンケートの声から

- ・蔵書の現物を見られたこと、漱石自筆の画、漢詩等をはじめてみた。感銘を受けた。
- ・貴重な資料の展示ありがたく思いました。
- ・文豪としても、一人の人間としても、漱石という人が一生の間にいるいろいろな人と関わり、影響があったということがよくわかる展示で

した。

- ・大へんな勉強家であったことが、留学時代も含めてよくわかり、よくこれだけ残されていたものと感心しました。画業は楽しんでいたことがわかり、興味深かったです。
- ・すごくおもしろくて、出ずに3周しました。4時間位いました。本に触れてみたかったです。いつか触るぞ！
- ・出版された本の美しさ、装幀の美しさに感動しました。
- ・蔵書の多さ、克明に書き綴られている勉強ぶりにびっくり、字の小ささに物を大事にしたのかなと感じました。
- ・私は小説家としての漱石に興味があって来館したが、展示物のジャンルが広く、様々な来館者の興味の違いを感じて面白かった。
- ・蔵書そのものの書き込みも公開されており、興味深かった。手紙等の解説は一部のものもあったので、全部だしてもらえたらよりよかったですと思います。
- ・英文学、漢文学等に精通し、たぐいまれな、知性と感性と品性を兼ね備え。なお、ユーモアとやさしさをいつも忘れずにいた、日本人として最も偉大な人物だったということ、あらためて感動しました。
- ・漱石展に2度きました。江戸東京博物館だからこそ貸してくれた資料だと思います。今回のような大がかりなものが無理でも、東北大200周年以前に是非また漱石展を。
- ・夏目漱石の学生時代のノート（勉強跡）。勉学を一生懸命頑張っていたことや、落書きをしていたことを見て、昔も今も変わらないと思った。
- ・東北大学に保管されたという蔵書を実際に見ることができ、漱石がロンドンで所有した書物が解ったこと。
- ・直筆のすばらしさ、お子さま達への愛情の大きさに感心しました。
- ・漱石はキュートな人だと感じていたが、その通りだったので、大変喜ばしかった。
- ・東北大学の所蔵品も普段は見られないということで、今回見せてもらい、非常に感動しました。日本の近代の歴史を実感しました。
- ・意外と漱石先生の字や絵がうまくないのに驚きました。

東北大学創立100周年記念 平成19年度東北大学附属図書館企画展

「絵葉書タイムトラベル - 狩野文庫絵葉書コレクションから - 」開催報告

今年度企画展の特徴は、様々な会場で、長期に渡って開催したことです。本学創立百周年を記念したイベントが各所で行われる中、本企画展も各会場の規模に合わせて柔軟に対応し、広く一般公開を行うことができました。展示会場と会期は以下の通りです。

- ・第一期会場：東北大学附属図書館本館
エントランスホール
会期：7/4 ~ 10/29



- ・オープンキャンパス特別展示：
医学分館：7/23 ~ 8/10
北青葉山分館：7/17 ~ 7/31
工学分館：7/23 ~ 8/10
農学分館：7/17 ~ 8/10



- ・百周年記念まつり特別展示
東北大学片平キャンパス
会期：8/25 ~ 8/26



- ・第二期会場：仙台市博物館（特別展「東北大学の至宝」関連イベント）
会期：11/2 ~ 12/9



本企画展のもうひとつの特徴として、資料の保全があります。展示期間が長期に渡ること、また、会場によっては展示環境が悪く、資料を傷める可能性があることから、展示資料はほぼ全てレプリカを作成し、展示をおこないました。これは展示資料が絵葉書という複製しやすい素材だったから実現したことでありますが、保存と公開が相反する関係である以上、レプリカ作成は広く公開するための一つの工夫となります。また、本企画展の図録を大学生協および仙

台市博物館の特設コーナー等で販売しましたが、これらの収益により資料の修復と保全環境の整備を推し進め、有益な展示会を多く開催することによって、大学の社会貢献を今後も担っていきたいと考えます。



以下、観覧者からいただいたアンケート回答の一例をご紹介します。

興味をもった資料は何ですか？

『生活風景の絵葉書です。当時の風俗がかいまみられました。』

『仙台の風景に興味を持ちました。昔の写真でとてもなつかしく思いました。』

『絵葉書が明治の人にとって芸術作品だったことが書かれている資料』

『景色ではない絵はがき。何故こんなものを... というようなグラフなどの絵はがき。』

『絵葉書がメディアの一部として災害の惨状を伝えるものだったことを示す資料。』

『災害絵葉書。このような絵葉書は全く見たことがありませんでした。』

『技術発達が収められた写真。』

『100年の歴史の重みと学問研究の拠点とに重みを感じます。』

良かった点等

『絵葉書の歴史を感じました。(10代・高校生)』

『今とは少し異なる昔の生活がとても興味深かったです。(10代・高校生)』

『絵葉書が種類別にまとめられていて大変見易かった。(10代・高校生)』

『難しく考えながら見るのと違って、ただ単に面白く楽しく見るのができて、新鮮でした。』

しかし、これだけの資料を集めることができたのはすごいと思う。(20代・東北大)

『絵葉書を通して昔を回顧するという視点が興味深かった。(20代・東北大)』

『パンフレットがかわいいです。』

(20代・東北大)

『絵葉書にもいろいろと時代が感じられ、とても楽しく拝見いたしました。』

『古い絵葉書がたくさん残っていて驚いた。昔の様子を知ることができたり、葉書に工夫がされていたり、見ていてすごく楽しいと思う。』

『自分が生まれる前の仙台の様子や日本の生活風景を見られてよかったです。』

『説明がわかりやすかった。』

工夫すべき点等

『現在の絵葉書もあれば見比べてみたいと思いました。(50代・東北大)』

『字の細かいものや旧字体のものなどは何と書いてあるか拡大・解説があればと思う』

(20代・東北大)

『展示の前に立つと光が自分で遮られてせっかくのパネルも展示物も暗くて見えにくい...。』

(20代・東北大)

『写真(絵葉書)が何を写したもののなのか、どういうもののなのか、もっと説明があれば良かった。(10代・他大学)』

要望等

『今までの展示の中で一番楽しめて見られた。次も期待しています。(10代・東北大)』

『絵葉書の何とも言えないノスタルジィがたまりません。またやって下さい。(10代・東北大)』

『大変よい企画です。断続的でも良いのですがこの先何回も内容を更新して続けてください。』

(60代・一般)

『またこのような企画を行ってください。』

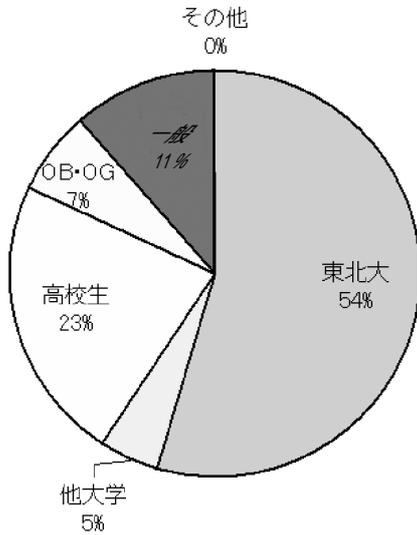
(10代・東北大)

『昔の生活風景、人々の表情が垣間見えたようで面白かった。もっとたくさんの資料をみたい。』(20代・東北大)

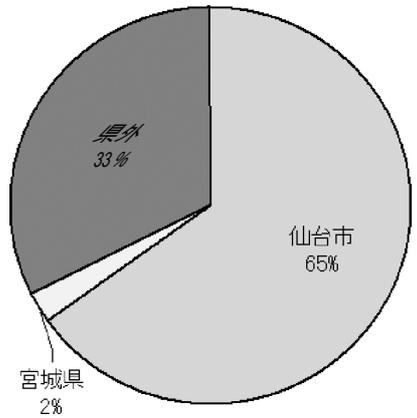
来場者アンケート集計結果（本館）

（アンケート回収枚数：67枚）

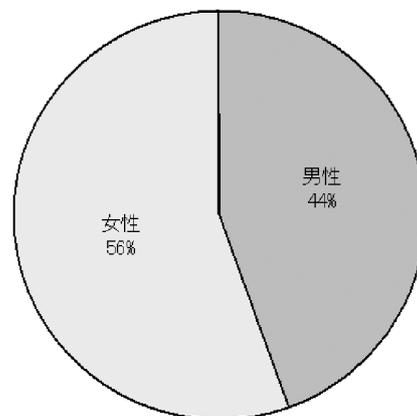
1. ご所属は？



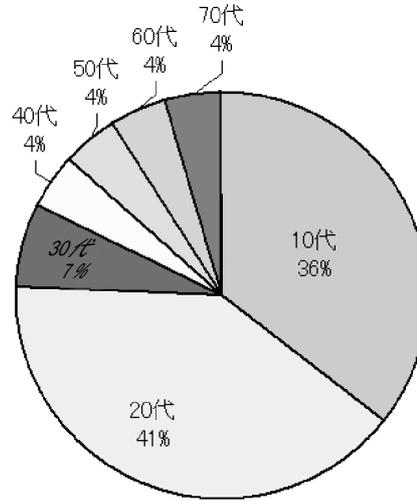
2. お住まいはどちらですか？



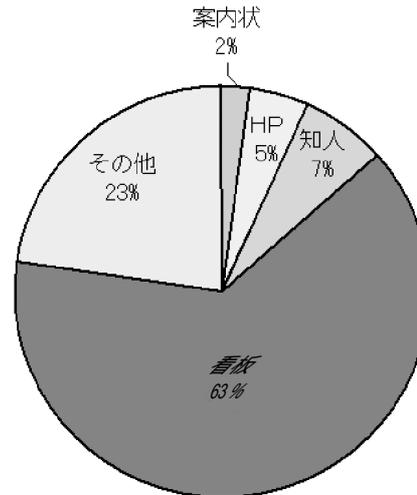
3. ご性別は？



4. ご年齢は？



5. この企画展をどこで知りましたか？



（展示WG）

会 議

- 学 内
- 19.10.3 平成19年度第4回附属図書館運営会議
- ・協議事項
 - 1) 平成19年度外部評価委員案について
 - 2) 平成19年度図書館計画 WG 委員案について
 - 3) 医学分館長の任期変更に関する附属図書館規程の一部改正について
 - 4) 平成19年度計画における部局での実施状況について
 - 5) その他
 - ・報告事項
 - 1) 次期附属図書館副館長について
 - 2) 平成19年度部局評価ヒアリングについて
 - 3) 東北大学の研究100年セミナーについて
 - 4) 第2・3回学術情報戦略会議について
 - 5) 国立七大学附属図書館協議会等について
 - 6) 第62回東北地区大学図書館協議会総会について
 - 7) 平成19年度第2回学術情報整備検討委員会・第2回学術情報資料選定小委員会(合同会議)報告について
 - 8) 東北大学の至宝展について
 - 9) 文豪・夏目漱石展について
 - 10) その他
- 19.10.16 平成19年度第3回附属図書館商議会
- ・協議事項
 - 1) 平成19年度外部評価委員案について
 - 2) 平成19年度図書館計画 WG 委員案について
 - 3) 医学分館長の任期変更に関する附属図書館規程の一部改正について
 - 4) 平成19年度第2回学術情報整備検討委員会・第2回学術情報資料選定小委員会(合同会議)検討結果について
 - 5) その他
 - ・報告事項
 - 1) 平成19年度部局評価ヒアリングについて
 - 2) 東北大学の研究100年セミナーについて
 - 3) 第2・3・4回学術情報戦略会議について
 - 4) 国立七大学附属図書館協議会等について
 - 5) 第62回東北地区大学図書館協議会総会について
- 6) 学術情報の取得動向と電子ジャーナルの利用度に関する調査への協力について
- 7) 東北大学の至宝展、文豪・夏目漱石展について
- 8) 総長裁量経費について
- 9) その他
- 19.12.14 平成19年度第5回附属図書館運営会議
- ・協議事項
 - 1) 理系新分館の建築基本設計案について
 - 2) その他
 - ・報告事項
 - 1) 医学分館長の交替について
 - 2) 商議員の交替について
 - 3) 外部評価について
 - 4) 平成19年度第3回国立大学図書館協会理事会について
 - 5) 平成19年度国立大学図書館協会東北地区協会事務連絡会議について
 - 6) 平成19年度総長裁量経費追加要求について
 - 7) 電子ジャーナルの共通経費化について
 - 8) 平成19年度部局評価結果について
 - 9) 大学評価・学位授与機構の訪問調査視察について
 - 10) 東北大学機関リポジトリへの学位論文登録について
 - 11) 川内キャンパス整備委員会について
 - 12) 本館増改築再検討 WG について
 - 13) 文豪・夏目漱石展及び東北大学の至宝展について
 - 14) その他
- 19.12.21 平成19年度第4回附属図書館商議会
- ・協議事項
 - 1) 理系新分館の基本設計案について
 - 2) ScienceDirect のバックファイル導入について
 - 3) その他
 - ・報告事項
 - 1) 医学分館長の交替について
 - 2) 商議員の交替について
 - 3) 外部評価について
 - 4) 平成19年度第3回国立大学図書館協会理事会等について

- | | |
|---------------------------|-----------------------------|
| 5) SCREAL 調査結果について | 10) 東北大学機関リポジトリへの学位論文登録について |
| 6) 平成19年度総長裁量経費追加要求について | 11) 川内キャンパス整備委員会について |
| 7) 電子ジャーナルの共通経費化について | 12) 本館増改築再検討 WG について |
| 8) 平成19年度部局評価結果について | 13) 文豪・夏目漱石展及び東北大学の至宝展について |
| 9) 大学評価・学位授与機構の訪問調査視察について | 14) その他 |

人 事 異 動

平成19年12月31日現在

発令年月日	新 職	氏 名	旧 職	備 考
19.10.1	附属図書館副館長	倉 本 義 夫		再 任
"	農学分館図書係図書一般職員	小野寺 毅		採 用
"	事務補佐員(総務課情報企画係)	齋 藤 由 華		"
10.31		菅 原 朋 子	事務補佐員(情報管理課図書情報係)	辞 職
11.1	事務補佐員(情報管理課図書情報係)	増 田 智 子		採 用
11.30		佐 藤 洋	医学分館長	任期満了
12.1	医学分館長	柳 澤 輝 行		併 任

編 集 後 記

東北大学創立100周年記念展示「東北大学の至宝」が仙台市博物館で開催されました。木這子の読者の皆さんの中にも、足を運んだ方もいらっしゃるのではないでしょうか。

学内の貴重資料が一堂に会する光景を見られる機会は、あと100年後の創立200周年記念までないかもしれません。今回残念ながら行かれました皆さん、200周年を迎える日までがんば

りましょう(?)

そんな方々にも朗報です。100周年記念のもう一つの目玉、「夏目漱石展」が3月15日から仙台文学館で開催されます。東北大学附属図書館に所蔵されている資料を中心に、興味深い品々が展示される予定です。ぜひお出かけください。

東北大学附属図書館報「木這子」 第32巻第3号(通巻120号)発行日 平成19年12月31日

発行人 北村 明久 広報委員会委員長 加藤 信哉

発行所 東北大学附属図書館 〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1 電話 022-795-5911, FAX 022-795-5909
URL <http://www.library.tohoku.ac.jp/>